

2024年2月25日

「私に対する神様のみこころ」

私たちは、楽な方法で神様の御声を聞こうとします。
正直言うと、私たちは、聖書のことばから神様の御声を聞こうとするより、人が言ってくれる助言に耳を傾けようとするのです。
特に努力しなくても、自分のためになることを聞くことができるからです。しかし聖書を読むときは、主の御声を聞くために努力しなければ、全く聞くことができません。聞こえたとしても、すぐに忘れてしまいます。神様のことばに反応する私たちの情熱と姿勢に、問題があるのです。

おいしく食べられるようになるまで、10分ほど待たなければならぬ食べ物があるとしましょう。その食べ物を3分だけ待って食べたときと、10分経つまで待ってから食べたときとでは、味が全く違います。最上の味を味わうためには、10分という時間の経過が必要だからです。このとき、食べ物の味を決めるのは、食べる人がどれだけ忍耐するか、つまりその人の姿勢にかかっているのです。
もしかしたら、神様の御声をインスタント食品のように聞こうとしてはいないでしょうか。

私たちが早く、簡単に神様の御声を聞こうとしたり、そういうことに慣れていたら、「私」という存在に対する神様の特別なみこころとご計画ではなく、すべての人のための一般的な神様の御声で満足するしかありません。

みことばを深く黙想することによって神様と一対一で向き合い、「私」に対する神様の御声を聞いてください。私たちにとって、それほど大きな祝福はありません。

月刊誌 リビングライフより

週報

§ 今年の教会テーマ
「主を仰ぎ見つつ」

§ 今年の主題聖句

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」 ヘブル 12章2節

「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」 詩篇 34:5

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2
宗教法人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード
鈴鹿キリスト福音教会
059-383-5145(教会)

2月25日

本日のメッセージ 「神のみこころに生きる人」
聖書箇所 使徒 21:1~14

「すると、パウロは答えた。「あなたがたは、泣いたり私の心をくじいたりして、いったい何をしていますのですか。私は主イエスの名のためなら、エルサレムで縛られるだけでなく、死ぬことも覚悟しています。」
彼が聞き入れようとしないので、私たちは「主のみこころがなりますように」と言って、口をつぐんだ。(21:13-14)

キリスト教の歴史の中でパウロほど神様に大きく用いられた人物はほかにいません。神はパウロを通して異邦人への福音宣教の働きを進められました。そしてパウロはダマスコ途上での奇跡的な主との出会いの中で彼に対して、異邦人への福音宣教の使命をはっきりと示されました。そしてパウロはそれを神様の自分に対するみこころと受けとめ、どんな困難や迫害にあっても信仰の従順をもって主のみこころを行うことに生涯かけて励みました。主もまたご自身のみこころに従う人に聖霊の油そそぎを与えて、その働きを祝福し、助けて下さるのです。

1. イエス様は、ご生涯を通して天の父のみこころを行い続けられた。
ヨハネ 7:17、
ヘブル 10:9
マタイ 26:39
2. 主は神様のみこころを行う者を喜び愛されます
マタイ 7:21
3. 神様は信じる者に、人生の大きなことだけではなく、その日常生活の中にもみこころを示して下さるお方です。

- ◎ これまでの信仰生活の中で、神様のみこころを示されたという経験がありますか。
- ◎ その示されたみこころに対して、信仰の従順をもって応答した結果、何か主のお働きがありましたか。
- ◎ これからはもっと神様のみこころを知り、それに従う者とされるために、どんなことが必要と思いますか。

【報告】

- ※ 来週の日曜日、午後1時半から「会話伝道セミナー」をもちます。
この「会話伝道セミナー」は、誰もが自然な会話の中でイエス様の恵みを証しできるようにということを目的にしています。日本ギデオン協会から派遣される講師を迎えて行われます。会場の準備やテキストの用意などの都合がありますので、参加希望者は申込書に名前を記入してくださいようお願いします。
- ※ KBI 神学生の泉田兄は先週金曜日、無事に宣教旅行より帰国しました。今日の礼拝でそのレポートをあかしてまいります。